

令和8年度 六日町小学校 学校経営の基本方針

◇はじめに

学力向上、生活指導体制のさらなる充実、当校にとって喫緊の課題
取組の基本

- 1 笑顔の基本とし、ポジティブ思考で行動する・対応する。
- 2 六日町小学校のこれまでの伝統や取組を継承しつつ、教育目標の具現に向けて「チーム六小」として全職員が方向性を合わせた教育活動を展開する。（「つながり」と「のりしろ」）
- 3 一人一人が教職員として初心に立ち返り、基本を大切に、新たな視点や考え方で六日町小学校の教育力を高めていく。（学び続ける教職員、研修）

◇教育目標

六日町だいすき にこにこ わくわく ぐんぐん

「ふるさとを愛する心」と「にこにこの笑顔」はすべての教育の基盤
「わくわく」する興味と感動で学び
「ぐんぐん」と成長し、自らもそれを実感

◇基本的な考え方や具体的な方策 《心の教育の充実と学力向上は車の両輪》

1 心を育む教育の充実／「六小の愛と義」の灯を守り続ける＋本気（＋元気、勇氣）

【生活指導のプロ】・・・子供をよく理解し、自信を育て自己肯定感を高める】

(1) 子供にとって居心地のよい学校

生徒指導上の諸問題（いじめや不登校等）の未然防止（発達支持的生徒指導） → 時間を生み出す

児童と教師との信頼関係の構築（WE B Q Uを活用した効果のある取組） → 学級の安定

⇒ 結果として、学習に集中し学力を押し上げる

(2) いじめや差別をしない・許さない強い心の育成

挨拶、時間（を守ること）、礼儀がベース

他者との共生、人権を尊重する態度の育成

(3) 自己肯定感、自己有用感の伸長

互いを認め、協力し、生き生きと自己実現しようとする力

(4) 強い叱責ではなく、諭す指導

認めるときや褒めるときも、叱るときや諭すときも、まずは子供の話に心を傾け、子供の実態や心情をよく理解した上で、事実を基にして臨み、自己理解を深めさせる。

2 日々の授業の充実

【学習指導のプロ】・・・子供をやる気にさせ、学力を伸ばす・イベントより日常】

学ぶ楽しさ、分かる・できる喜びを実感、「本物体験」により夢と希望を育む。

(1) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、児童が主役の授業づくりを推進する。

(2) 「読む力」を育成し、学力向上を図る。

(3) 「Mスタ(総合)」を中心に「六日町だいすき」を実現する教育活動を教科横断的に構築する。

(4) 学習面で困り感のある子供へ温かく対応し、寄り添い、個々に応じた手立てを講じる。

3 プロとして学び続ける教職員（研修を深め、具体的な指導の在り方を探り、指導力の向上を）

【令和の日本型学校教育「個別最適な学び」「協働的な学び」「ICTの活用」等】

- (1) 積極的な授業公開による資質・指導力の向上を図る。
- (2) 個人課題や研修履歴を活用した対話に基づく研修を奨励する。
- (3) 方向性を揃えた中で、一人一人の持ち味と専門性「相違」と「創意」のある実践に努める。

4 安全・安心な学校環境をつくる

【子供と共に安全・安心な学校・学区の環境づくり

心身の健康づくりや安全への関心をもたせ、学ぶ意欲を向上】

- (1) 子供の命と健康の確保
- (2) 各種事故や犯罪・災害時の対応については、実践的な知識と態度、行動力を育む。
- (3) 教室・校舎内外の美化に努めるとともに、健康で安全な生活環境・言語環境を維持する。

5 信頼関係と連携・協働の構築（PTA 活動方針を尊重し積極的に参加協力する。「～地域と磨く」）

【相互理解を図り、役割分担・連携・協働 保護者、学校運営協議会、地域学校協働本部】

- (1) 保護者との相互連絡で情報の提供と収集に努め、支援が必要な場合は関係機関とも迅速に連携協働して、地域全体で子供を育てる姿勢で取り組む。
- (2) いじめや不登校、特別支援教育、児童虐待に関する事案には、迅速で丁寧、かつ慎重な配慮をもって臨む。
- (3) 中学校区内の4校幼保各園（架け橋プログラム）との情報・行動・活動連携を積極的に進める。
- (4) 「報・連・相+報」を徹底し、学校として誠意をもって早期解決を図る。

◇最後に

1 「100-1=0」（南魚沼市教育振興会からのアピール）

非違行為発生を、組織として未然に防止しよう。

2 働き方改革を推進しよう（教育は夢ある仕事。しかし、このままでは学校や子供の未来が・・・）

- (1) 先手必勝、生徒指導に要する時間の軽減（発達支持的生徒指導）
- (2) 後回しにしない。（生徒指導と財務）
 - ① 一人で抱え込まない。（質問する力、を出す力、コミュニケーション力）SOS
 - ② 「ありがとう」を伝え合う「のりしろ」を出し合う教職員集団チーム六小になろう。
- (3) PDCAを意識した教育活動を展開する。
 - ① 評価を行って、一つの活動が完結する構えで、次年度の計画は今年度中に考える。
 - ② 常に教育活動の見直しを図り、業務の精選につなげる。

3 教育には積み重ねが必要（あわてない。あてにしない。あきらめない）。

4 「愛」で始まり「恩」で終わる教育を。